

## 4380 地球のかおり：「祈りの朝」(産経新聞) 心模様

日本を出発したのは、厳寒の2月。自由な道草のひとり旅。  
今回は、列車が乗り放題の、スイスパスを購入。  
スイスの主要な駅や、思いつきや気まぐれに、田舎駅にも降り立つ。  
街の風景や、人々をウオッチング。そして、画像記録。  
心と身体と呼吸が整い、落ち着くと、いろいろなものが見えてくる。  
ひとり旅という旅のスタイルの醍醐味。  
そうして、次々と、スイスと国境を接する国々も訪ねた。

今回の旅の主目的は、厳寒のアルプスの再訪。  
雪の中を、思いつくままに、直感で、道草するトレッキング。  
日本人が、あまり行かない所を訪ねる計画。  
アイゼンはじめ、装備は万全にして、リスクも覚悟しての旅立ち。

厳寒の2月は、空気が美味しく、澄んでいる。  
だから、青空も最高。気分爽快。  
何よりも、動きまわった後の、一口の水の美味しさや、食の楽しさ。  
汗を流して、実体験を持たないことには、わからない。  
これも健康体があつてこそ、両親に感謝したい。  
ありがたい。嬉しい。幸せ。

心が落ち着いている。結果、集中できる。一心不乱。これが何よりも有難い。  
三男坊という、立つ位置のせいなのか、わからないが、  
また、生まれつきなのか、気を使う習性、心の癖は治らない。  
そんな心の有り様で、景観を楽しむのだから、  
ひとり旅が、寂しいことなんてことは、まったく、なかった。  
その方が、精神的には気楽である。  
だから、危険も同居するだろうが、ワクワクしている。

50歳にして、好きなことが見つかった。好きなことができる幸せ。  
しかし、その道中は、大変な試練だったが、今は懐かしい。  
今までの人生体験のような、心の痛みはない。厳しさもなんのその。  
立っていることもできない状況の厳しい風雪もなんのその。  
風速40メートル、ブリザードも仕方のないこと。人生には、ついてまわるもの。

スイス、ヴァリス州、ローヌ河をはさんで、南も北も、アルプス。  
南は、すべてイタリア国境で、モンテローザや、マッターホルンなどの  
4,000m級の峰々が、壮大に連なっている。  
このヴァリス州、フランスとイタリアに接していたため、  
ローマ時代から、往来が盛んだった。  
ローヌ河の流れるローヌ渓谷、この南北には、  
円形劇場のような、ローマ時代の遺跡や古い教会が多く残っている。

ブリークからほど近い、ローヌ渓谷の北西側の中腹に展開する  
アルペンリゾートを総称して、アレッチ地域と呼ぶらしい。  
アルプス最大のアレッチ氷河は、  
ユングフロウ・ヨッホからの眺めで、知られているものの、  
本当の氷河らしい風景は、アレッチ側からのもの。  
ヨッホからは、ほんの一部（大半は万年雪）しかみられず、  
ちっとも「氷の河」らしく、見えないと聞いていた。

好奇心旺盛な久楽を刺激、フットワークのいい久楽が登場。実践。  
谷底付近の斜面は、とても急なため、  
鉄道からは、中腹が見えず、車の通れる道もない。  
これが、静けさを保っている。  
そのため、谷底とはロープウェイが連絡。  
生活路線の色合いが濃いので、アクセスの数も多い。  
比較的料金も安く、深夜まで運転。谷底の駅は、フィーシュ。

急行の一部が停車するだけ。普通列車しか利用できない。  
自由なひとり旅の特権。リーダーアルプの村へ。  
そして、アレッチ氷河を見る。  
体感することで、地図と地勢と感覚が一致する。状況が把握できた。  
そして、素朴なベットマーアルプの存在を知った。  
谷底の駅、フィーシュまで戻り、普通列車で、隣の駅「ベッテン」へ。  
ホームだけの**無人駅**。そして、ロープウェイで、中腹の村へ。

素朴な小さな村だが、スキー場もある。宿もある。  
2～3日、宿泊しよう。そう思っているうちに、来ていた。景観は最高。  
宿泊した、二日目の早朝だった。天候も味方。  
見落とし、通り過ぎるような教会だが、私には、大きく見えた。

朝日に照らされた朝の教会。教会の前は、広場になっている。  
子供たちや親子連れ、おばあさんや、おじいさんが、  
日だまりの中、楽しんでおられる。  
みんな目が輝き、生き生きしている。寒さもなんのその。  
私まで、楽しくなった。嬉しいなあ、ありがたいなあ、楽しいなあ、と  
思っているのだろうか。ふと、思った。

この教会のおかげで、スイスアルプスの輝きが増した。  
訪ねられたことに感謝。今ある健康に感謝！  
そして、スキーはじめ、滞在を楽しんだ後、ベットマーアルプから、  
リーダーアルプへと、雪道をトレッキング。  
途中、対岸ならぬ谷をはさんだ、スイスアルプスの向こうに、  
豆粒のような、**マッターホルン**が見られた。これも感動。  
腰がうもれてしまう、道なき道にも、入り込んだ。

汗を流して、精一杯、頑張った1日が終わろうとしている。  
朝日を浴びる教会で、無事を願ったおかげなのか、  
大自然は、不思議な粋な、贈り物をしてくれた。自然は、人間の師匠。

昨今の日本、あまり、心地よく感じないのは、なぜだろう。  
やばいぞ日本、やばいぞ日本人！  
日本の居心地は、いかななものかと、思ってしまう。  
山はみどり、野に花、人にはこころ、そうあってほしい。

翌日、教会で、よくなってほしいと、祈ってきた。